

くすの木

県立図書館だより

第84号

兵庫県立図書館

〒673-8533 明石市明石公園 1 番 27 号

仮設図書館住所

〒673-0891 明石市大明石町2丁目1番29号

TEL(078) 918-3366

レファレンス専用 918-3377

<http://www.library.pref.hyogo.lg.jp>http://www.library.pref.hyogo.lg.jp/i_top.html

兵庫県立図書館では、図書館が単に本を貸し出し、人と本が会うだけの場所ではなく、様々な活動を通じて、ネットワークが拡大し、県民のあらゆる世代が知で結ばれ、交流し、創造活動や実践活動につながるよう、知とネットワークと創造の拠点となる未来型図書館の実現に向けて取り組んでいます。

今回は、現在進めています耐震改修工事と仮設図書館での活動等の一端をご紹介します。

兵庫県立図書館耐震改修工事



耐震改修工事前の県立図書館

兵庫県立図書館は建築後41年を経過し施設も老朽化していることから、耐震補強、安全性の向上等を図るため、平成28年9月初旬から耐震改修工事を行っています。耐震改修工事中は仮設図書館に移転し、業務を行っております。

本耐震改修工事については、建物の耐震補強や老朽改修を行うとともに、利用サービスの拡充を図るために、①書庫スペースの増加、②書架の増設、③閲覧席の増設、④正面ロビー来館者専用エレベーターの新設、⑤親子読書スペースの新設、⑥地域課題解決コーナーの新設等を進めて行く予定です。



仮設図書館



仮設図書館書評コーナー

仮設図書館では、これまでどおりのサービスを提供できるよう、職員一同努力して参りますが、約6万冊の開架書架と外部書庫を活用した運営となることから、本の取り寄せに時間がかかる等ご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解ご協力の程よろしく申し上げます。詳しくは当館 HP「仮設図書館のご案内」をご覧ください。

特別展示・企画展示・図書展示

県立図書館では様々なテーマを設定し、所蔵資料を活用した展示を行っています。今年度も多くの展示を行いました。その一端を紹介します。

●特別展示「生誕130年谷崎潤一郎」展

(平成28年1月22日～6月5日)

阪神間に長く住み、関西を舞台にした作品を数多く残した谷崎潤一郎。平成28年は生誕130年にあたりました。芦屋市谷崎潤一郎記念館や兵庫県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)等と連携し、谷崎潤一郎の著作や関連資料を展示しました。また、関連講座として武庫川女子大学たつみ都志教授に「天空の恋～谷崎と猫と三人の女」と題して講演していただきました。



谷崎潤一郎展示

●企画展示・図書展示

県立図書館では本・モノ・講座がセットになった特別展示だけでなく、毎年防災に関する展示をシリーズで行い、県民の皆様には防災・減災について考えていただく機会を設ける等企画展示を数多く行っています。また、平成28年NHK大河ドラマに戦国時代屈指の知将「真田幸村」が取り上げられるのを機に、幸村の足跡とその時代を当館所蔵の図書資料を中心に紹介し、幸村と並び称される兵庫ゆかりの武将「後藤又兵衛」に関する図書資料等を合わせて展示。展示関連講座として県立芸術文化センターで「女紋～池田蘭子と立川文庫の時代」に当館職員が出演しました。

その他にも新聞記事と連動させた「次の本へ」展や金融機関や産業振興団体と連携したビジネス支援の「ふるさと起業で地元を元気にしよう!!」、兵庫陶芸美術館との連携展示「万国博覧会」等多数の展示を行いました。

●仮設図書館での展示

仮設図書館においても、スペースが少ないながらも書架を利用した企画展示を行っています。その中からいくつかをご紹介します。

●人間国宝「桂米朝」展

県立歴史博物館での特別展「人間国宝桂米朝とその時代」や兵庫県立尼崎青少年創造 仮劇場(ピッコロシアター)での「米朝師匠とピッコロ寄席のあゆみ展」と連携し、桂米朝さんの著作や上方落語関連資料を集めた展示「人間国宝『桂米朝』展」を開催しました。

●兵庫の最先端技術最前線

兵庫県にまつわる最先端技術関連の図書を県内の施設と連携して「スーパーコンピュータ」(神戸市)「Spring-8」(佐用町)「農業技術・植物工場」(加西市)等6つの分野に分けて展示。「先端医療、iPS細胞」の分野では京都大学山中伸弥教授の著書やiPS細胞、再生医療などに関する本を、また「兵庫が生んだ科学者・未来の科学者」では兵庫県出身の科学者の本を展示。また、連携先の事業が詳しく分かるパンフレット等を併せて展示しました。

●その他の企画展示・図書展示

2016年NHK朝の連続テレビ小説「べっぴんさん」にちなみ、本や写真等をとおして子ども服の世界を「子ども服の世界一本で見る特別な品」で紹介しました。また兵庫県農林水産技術センター酒米試験地や兵庫県酒造組合連合会、灘五郷酒造組合と連携した「山田錦から日本酒のできるまで」、医療に関する展示「ストレスと向き合う」、「敬老の日法制化50年」「秋です。村上春樹です。」「世界遺産ポンペイの壁画展」「星新一生誕90年」等多くのテーマで展示を行いました。



桂米朝展示



山田錦展示

講座等

県立図書館では、読書活動を推進するための読書講演会をはじめとして、地域の情報拠点となるべく所蔵資料や資料に関する情報を的確に分かりやすく県民の皆様に伝えると共に、地域の課題解決に役立つことをめざして、講座を開催しています。

● 読書講演会

平成29年1月18日に翻訳家で評論家の脇明子さんを招いて、「読む力は生きる力～本を読むことはなぜ必要なのか」と題して講演していただきました。脇さんは読み聞かせに始まり、書き言葉で書かれた本が楽しめるよう大人が適切に支援していくことが必要で、そうやって培われた力は生きる力につながると話しておられました。

また、3月11日には人と情報を結ぶ WEプロデュース代表で兵庫県立図書館協議会会長の尼川洋子さんに第2回読書講演会で「本があってよかった」と題してご講演いただきました。



第1回読書講演会

● 葉っぱのミニずかんをつくろう!

子ども読書活動推進モデル事業として10月16日に「明石公園を探検して葉っぱのミニずかんをつくろう!」を開催しました。県立人と自然の博物館の小館研究員を講師に明石公園の自然観察をし、そこで葉っぱに関する説明を聞き、一緒に葉っぱを使った遊びをして楽しみました。室内へ戻ってきてからは図書館の本を使って自分が集めてきたドングリや葉っぱの標本や図鑑を作り、大いに満足していただきました。



葉っぱの観察

● えほん de ピクニック

子ども読書週間の4月23日に「えほん de ピクニック」を開催しました。たくさんの絵本に囲まれた部屋で自由な雰囲気の中ゆっくりと読書を楽しんでいただくと共に紙すきや生きものに触れる体験をして楽しんでいただきました。11月19日には本年度2回目の「えほん de ピクニック」を開催。昨年度より連携している武庫川女子大学金子ゼミの大学生による科学実験ワークショップが大盛況でした。体験をしながら本に親しむことのできるよい機会となりました。



ワークショップ

● その他講座

読書講演会や子ども読書活動支援だけでなく、当館所蔵資料やその活用方法をお伝えする図書館利活用講座として、「図書館入門講座」を開催しています。今年度は県立図書館の利用方法を説明する「県立図書館入門」「仮設図書館入門」といった講座や、パソコンでの本の検索の仕方を案内する「県立図書館のホームページを使ってみよう」、方言に関する本を紹介する「ひょうごの方言ブックトーク」等多くの講座を開催しました。

また、館内の講座だけでなく学校への出前授業も行っています。「図書館やインターネットを使った効果的な情報検索」「読書の楽しみ」といった講座で高等学校の生徒や先生方に学んでいただきました。そして、学校だけでなく、県内の各地へ出前講座を行っていますので是非ご活用下さい。



有馬高校での講座

● 図書館等職員研修講座

県立図書館では県内の市町立図書館の支援となるよう研修を実施しています。6月1日には元塩尻市立図書館長・常盤大学非常勤講師の内野安彦さんに「公共図書館を経営するということ」と題して館長研修で講義していただきました。また、「図書館サービスの基本について」「蔵書検索入門」「資料の取り扱い方について」といったことを学ぶ新任研修や「レファレンスインタビューのコツ」「兵庫ゆかりの情報の調べ方」といったレファレンス力の向上をめざす研修も行っています。



レファレンス研修

レファレンスあれこれ

最近のお問い合わせの中から、手掛かりが少なく答えが見つからないかと思われたものの最終的に答えに辿り着くことができた事例を紹介します。

千宗易の「年賀の文」を楷書の文で読みたい。できれば現代語訳と説明が載っているものを見たい。

まず、千宗易(せんそうえき)を『大辞泉 下巻』(当館請求記号:813.1/185/2)で確認すると、千利休(せんのりきゅう)であることがわかりました。千利休について「安土桃山時代の茶人。侘茶の大成者で、千家流の開祖。茶の湯を武野紹鷗(たけのじょうおう)に学ぶ。」とあります。

探されているのが年賀の文ということなので、千利休の書状に関する資料を確認するために当館の所蔵資料を検索したところ、『定本 千利休の書簡』(791.2/1)『利休の手紙』(791.2/82)『利休大事典』(791.2/53)などの基本的な参考資料が貸出中となっていました。

そもそも「年賀の文」がどのような文かわからなかったため、インターネットでキーワード「千利休 年賀の文」を検索するとオークションサイトで該当資料を見つけることが出来ました。写真が掲載されていたので、文の内容と、掛軸として大塚工芸社が表装し、講談社が発行所となっていることがわかりました。インターネット上ではその他の情報を見つけることはできませんでした。

草書で書かれているため全文の内容がわかりませんが、判別できた字を念頭に置きながら調査

を進めていきます。キーワード「利休 書状」で検索し出てきた『小松茂美著作集26』(702.1/138/26)には千利休の書状が約220通掲載されていましたが、「年賀の文」は見つかりませんでした。

国立国会図書館サーチでもキーワード「利休 書状」「利休 手紙」「利休 書簡」で検索し、『書の日本史第5巻』(728.2/32/5)『図説茶道大系第6』(791.2/6)『茶道全集巻の九』(国立国会図書館デジタルコレクション)などを確認しましたが、こちらにも掲載されていませんでした。

ここで書状などの単語がキーワードとして挙がっていないものにも掲載されている場合があると思い、当館所蔵の千利休関連資料で書状が掲載されているような資料を確認しました。その中で『茶道聚錦3』(791.28/3)に図版として利休の書状が多数掲載されていたため、年賀の文の文面と見比べながら探したところ、p244に「鴈汁(かりじる)の文」という名で掲載されていました。図版・訓読文・書状についての解説は書かれていましたが、残念ながら現代語訳は書かれていませんでした。「鴈汁の文」は、初代藪内紹智(やぶのうちじょうち)(藪中斎(そうちゅうさい))宛に、賀春と新春茶会の招待に答えた書状のようです。

キーワードのことばにこだわり続けるのではなく、今回の図版のように持っている文字以外の情報を手掛かりに資料の現物にあたることで、探している内容に辿り着くことができることもあると思います。

(利用サービス課 吉井見衣)

県立図書館ホームページで、これまでに県立図書館が国立国会図書館のレファレンス協同データベースに提供したレファレンスの事例を見ていただけるように案内しております。是非そちらもご覧下さい。